

核戦争に勝者なし。被爆国日本は核保有国の共同宣言を支持し 後押ししよう



2022年春・68号

信条・世に媚びず ・ 粹にとらわれず
・ 言いたいことはハッキリ言おう

発行／吉田 進
携帯 090-3168-1063
FAX 072-863-0605
〒110-0015
東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL : <http://lifecrossing.ne.jp/>
E-mail : info@lifecrossing.ne.jp



CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・自分のことを書いています。

力なく自民党へすり寄る「連合」は もはや労働者の代表・味方やない 「やっぱり、黙ってられへん」 辻元清美さんにインタビュー… 3	吉田 進… 2
米英仏中露「核戦争回避」声明歓迎！ 東京 会社役員 三田 栄考… 4	
中国の「一帯一路」・インドネシア編 中国が受注した高速鉄道計画 貴純(キスミ)ハル… 5	
原発事故から11年 福島は今 福島原発訴訟団团长 武藤 類子… 6	
政治家にならないことの薦め 大阪 原野 通有… 7	
憲法と改憲を考えるシリーズ⑮ 鈴木義男と生存権——「生存権」誕生の舞台(下) 「社会の真の富は一人一人の人間の命」 社会事業史学会会員 清水 まり子… 8 / 9	
保護犬との暮らし 東京 シロツメクサ… 10	

ポストコロナの人類の生き方(上) 人類を含む全ての生物は、 地球環境のパラサイトである。 宇宙生命哲学者 伊藤 俊洋… 11	
人々の小景⑳ 野村芳太郎 —社長になる事を期待された映画監督— 鎌倉 市川 隼… 12	
特攻隊員の歴史を次世代へ伝える 東京 世田谷区 太田 有美… 13	
ロスジェネが日本再起動のボタンを握っている⑱ 映画監督 増山 麗奈… 14	
長生きの寂しさ 前島 咲子… 15	
余録／編集後記…………… 15	
憲法が、希望 政治に正義が問われている 日本共産党参議院議員 山添 拓… 16	

力なく自民党へすり寄る「連合」は もはや労働者の代表・味方やない ——自ら蒔いた非正規雇用の責任をとれ！

吉田 進



冬に咲く花

立春もオミクロンで春立たず

オミクロン第6波は、国内で300万人を越え、老人はもとより子どもへの感染が急増しているのが心配だ。一方、一難去ってまた一難。別系統のオミクロン種が国内外で発生したというから寝られない。トンネルを抜ければまた、トンネル。人々は絶望が諦めとなり、社会全体が傾く。その歪みの中で犠牲になるのが社会的弱者。いじめ、虐待、自殺、犯罪増となっている。

「もうおねがいゆるしてください」と綴る5歳女児を冬のベランダで放置致死。また子どもに熱湯をかけて死なせた若夫婦などは、鬼の所業ではないか。献身的に医療を行っている医師や関係者、多数の患者を巻き添えにした放火事件や訪問診療の関係者を猟銃で殺害するという身勝手な犯行の理由が、貧乏し孤立し自殺の道連れとは、オミクロンよりずくと怖い社会現象だ。

冬の雨悲しみ流すコタツ酒

若くて往く道は遠く、老いて過ぎた道は近い。嫌な思い出を忘れ、今を考えるのにはコタツ酒でテレビが一番。鬼

平犯科帳の長谷川平蔵の人情がいい。歎異抄の「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」に似ている。それを演じた中村吉右衛門さんも他界。瀬戸内寂聴(99)さんも。寂聴さんは、貧困や家庭内暴力、いじめで苦しむ少女を支援。「一方では文学の鬼。一方では仏の顔となり、多くの悩みに応える心の支柱だった」という。

マルクスもびっくり

「新資本主義」

マルクス著の「資本論」関連書が売れている。改めて、マルクス・エンゲル著(1848刊)の「共産党宣言」——「ヨーロッパに幽霊が出る。



ピリケンさんもマスクをつけた

共産主義という幽霊が。ふるいヨーロッパのすべての諸国は、この幽霊を退治しようとして神聖な同盟を結んでいる——」を読んだ。

では今、退治しなければならぬ亡霊は、アベノミクスの経済成長優先の新自由主義だろう。つまり、富は大企業に集中する一方、不安定な非正規労働者が全労働者の4割を占め、コロナ禍で失業者が続出する結果をもたらした。

だから次は、岸田首相の「新しい資本主義」となったが、アベノミクスの言う「成長と分配」は、分配優先の法規定をしなければ、ただの「新」だけとなりかねない。

国際的に格差是正が問題になり日本も遅ればせながら追いつきざるを得なくなっている。

人票集めアベ自民が見なら「連合」はゴルフ

アベ自民は違法な花見をくり返し、旧社会党系の総評と旧民社系の同盟が合体した連合は、結成当初(1989)「顔合わせ・心合わせ・力合わせ」と唱和した。「顔合わせ」はゴルフや飲み会で百点満点だが、「心合わせ」は道

半ば——と連合大阪の元副会長長の要宏輝さんは記す。

連合に結集する大阪地評(当時)は、春闘総括の名目でゴルフ大会。加えて「原発や他単産の方針に反対するな」とのお達しだ。

一方、「企業ファースト、自分だけ、カネだけ」の民間大労組こそ大なり小なり、非正規労働者の雇用をもたらしたことを付け加えたい。

連合傘下の政党は、立憲民主党と国民民主党の二つがあるが、一方の「国民」はすでに「維新」や他党との連携模索中で、「立憲」とは割れたまま。その中で連合は、夏の参院選では支援する政党名を明示しない方針をまとめた。つまり、共産党と協力する候補者は推薦しない方針も決めた。

その反面、岸田政権への接近が目立つが、その道を目指すなら、もはや労働組合のナショナルセンターではなく、二大政党達成という国民的期待を放棄することになるだろう。

中露など訳の分からん社会主義国が闊歩する。いつも表面の覇権主義者に言いたい。

習さんよ一度アツハツと笑ってよ。

やっぱり、黙ってられへん。

参院選全国比例区へ挑戦

辻元清美さんにインタビュー

辻元 ー辻元さんは、今夏の参院選挙で、全国比例区に挑戦することを決意されました。何故ですか？

に色々なことを学びました。地元高槻・島本のまちを歩いて、自分の原点を見つめ直し、多くの人たちと対話し、その中で、永田町を離れたからこそ、人々の暮らしと私がいいた国会がかけ離れていたのではないのか、本当に困っている人の声が政治の場に届いていないと、切実に思うようになりました。

ー大阪・西成の施設で介護ボランティアをされているそうですね。

辻元 はい。そこで出会った生活保護の男性が「死ぬのを待ただけ」ともらした声を中心に刺さりました。歳をとっても自分らしく生きられる社会を目指してきた政策の不十分さを痛感し、また格差を広げる大阪のカジノは何が何でも止めなければ、という決意は一層強くなりました。



兵庫の児童養護施設で育った39才の女性から手紙が届きました。「親の存在を知らない苦しみ、DVのトラウマ」など辛い思いが綴られ、最後に「辻元さんは国民に寄り添ってくれる人だと思っ

るので、しんどい声を国会に届けてほしい。元気でがんばれ」と結んでありました。落選している私に、声を届けてほしいと。心にしみいり、立ちすくんでいた私の背中を押してくれました。

一方国会では、憲法に緊急事態条項を入れさえすればコロナ禍の問題が解決するかのような、現実離れた憲法論議が進められようとしています。検査すらできない、行政

の支援からたくさんの方がぼれ落ちているのは、憲法に緊急事態条項がないからですか。政府の責任を十分に果たしてこなかったからではないですか。

ー全国の方から「早く国会に戻ってほしい」と声が届いたと。

辻元 「辻元さんのいない国会はつまらない」ともいわれました。「ここはおかしい」「私の声は届かない」、そんな小さな声を、国会でスピーカーになって大きな声で問題提起する。今まで私が、そんな役割を果たしてきたからかな、と思うんです。いま落選中なんです。そのくらい、日本の政治は分かれ道にあるんだと思います。このまま分断がおおられ、意見が違ってもを切り捨てる、そんな政治にさせるわけにはいきません。それと、共にたたかってきた仲間たちが苦戦している。それなのに自分がいま国会にいないことが悔しくて。私もやれることは何でもしていききたい。強い野党をつくっていききたい。

ー辻元さん自身、女性議員を増やす活動をしてきたのに、昨年の選挙では10%を切ってしまった。

辻元 これも悔しくて申し訳なくて。この現状を変えるために何とかせなあかん。一度落選したからといって、あきらめたらいけない、そんな思いが溢れるのです。「やっぱり、黙ってられへん」のです。

チャレンジは全国ですが、今も私の拠点は大阪です。今、日本中が傷んでいます。だから、大阪から「全国行脚」を続けて声を聞き続けるんです。私は一年生議員のときに、現場の声をもとにNPO法や被災者生活再建支援法、男女共同参画社会基本法をつくりました。確実に、社会は変わったと思います。

アンテナをさらに高く上げて、全国の声をしっかりと受け止め、しっかりと議論をし、解決策を作っていく。その役割をもう一度やりたい。

ー苦節の思い出がありますか。

辻元 議員辞職したとき。自分を育ててくれた社民党を離れたとき。瀬戸内寂聴さんがお亡くなりになったとき。なぜか恋愛スキャンダルのひとつも報じられないと気付いたとき。

ー最後に、全国のリベラルに向けてひとこと。

辻元 私たちの手で、力を合わせることで、確実に社会を変えられる。痛めつけられ、希望をもつことすら許されない次の若い世代のためにも、私たちの世代の責任でいまの息苦しい社会を変えましょう。

辻元清美さんプロフィール：早稲田大卒業、学生時代からピースボート設立、市民運動を経て土井たか子チルドレンとして政界入り、鳩山内閣では国交副大臣、首相補佐官を歴任、立憲民主党の創立に参加し、女性初の野党第一党国対委員長、野党は「批判」恐れずに批判を政権監視と問題解決に必要な力と主張して22年の参議院比例区に挑戦を期す

「核戦争に勝者はおらず、決して戦ってはならない」との米英仏中露『核戦争回避』声明歓迎！

東京 会社役員 三田 栄考



原爆

正月4日早朝、ネットで核保有国の共同声明が発表された。目玉の皿のようにして朝刊で記事を探しても一行もない。夕刊の一面を読んでもない。誤報かと思いつつ社会面でやっと見つけた。核保有国が同意しての上初の共同声明が社会面かいなと異様に思っていたら、さすがに翌日の朝刊には大きく出ていた。

が、それ以後は全くと言って良いくらいに話題にならない。国会でもどこでも誰も取り上げないのはどうしてだ。「実効性を見極めたい」「今年のNPT再検討会議で保有国への批判が強まるから先手を打って核軍縮に熱心な姿勢を示し、風よけにしたい」との思惑が見える」との意見もある。しかし、これだけの5大核保有国が「核戦争を避ける」「核戦争に勝者はいない」との見解で一致し、それを共同声明の形で世界に責任を以って発した意義は極めて大きいはずだ。日本政府と日本の平和勢力や世界の世論が、実効ある方向に押しやるチャンスではないか？

約にオブザーバー参加すらしない「核の傘」に頼る同盟国（日本）の役割も問われる。広島出身で原爆に関する本も出している岸田首相に少しでも前向きな役割を要求したい。来年日本で開かれるG7サミットを広島で開催し、ヒロシマ・ナガサキの原爆慰霊碑を案内するくらいのはやっつてもらいたい。

反核運動は自己満足でなく、効果を念頭に

そう言えば昨年、松野官房長官が「米国が核先制不使用宣言」を発するのは反対するとの報道があった。先制不使用などと言言すると敵国に付け込まれるから、そんな宣言を止めてくれ——と言ったのだらう。自民党・政府は「北朝鮮問題とも核兵器削減にもありとあらゆる機会を見つけて努力する」と言うが、口だけだ。努力は全然していないどころか結果的に背を向ける動きだけだ。共同声明を機に「保有国は核を減らせ」くらの政府声明を出すべきだ。

国大使館を巡って「歓迎し、更に具体的な動きを期待する」申し入れをすべきだ。メディアの話題になります。日本のリベラル派は安保法制など国内の問題には何万人も集まるが、国際問題ではまず誰も表立って動かない、どうしてだろうか？国内で新聞に核兵器削減を訴える全面広告よりも米紙に掲載の方が百倍効果がある（実施したこともあるそうだが、カンパした方も実感が乏しいのだらう）。活動は自己満足が目ではないから中身を重視してもらいたい。ホントは露中北にこそ全紙面広告を出せれば。その昔私は米露語で両国首脳に核禁要請の手紙を出したことがある（意外にソ連からは返信があった）。ありとあらゆる方法で少しでも核廃絶の努力が必要だ。



核シェルターマーク

かつて（そして今も）米国（韓国等にも）を旅行すると建物に核のマークがあるので追いかけると地下に行く。核戦争になればここへ

逃げ込めシェルターだ！

語り部被爆者が居なくなる心配が指摘されるが、70年前の戦争は若者に実感が湧かない。映像技術が発展しているのだから、偶発的核戦争を詳細に科学的・軍事的に映像で架空紹介してはどうだろうか？かつての戦争は数年で決着したが、核戦争は数日、否、数時間で廃墟の結果が出る。回避も完全防衛も不可能が立証されるだらう。そんな恐ろしいシミュレーションには大反発が起こるだらうが、それが避けられない人類の現実だと知らしめるべきだ。

広島訪問のオバマ大統領の傍に核の靴を持った者がいたが、そのボタンを押したら人類は消滅すると、身震いした。私が金正恩なら米国にやられたら保有する全核を発射させて自分も死ぬだらう。世に言う核抑止力を認めよう。が、永遠に核抑止時代が続くわけがない、いつかは偶発核戦争になるか核廃棄になるかのどちらかだらう。であれば、廃棄は核拡散が少ない現在の方が実現しやすいはずだ。

中国の「一帯一路」インドネシア編

中国が受注した高速鉄道計画

貴純（キスミ） ハル

日本人がよく知るインドネシアの話題といえば、数年前の高速鉄道計画（新幹線敷設）受注で日本が中国に敗れたことだろう。多くの日本人は「性能よりも価格の安さをインドネシアが選択した」と思っているが、これは一側面でしかなく、そんな単純な話ではない。

高速鉄道計画参入に対し、日本政府は「ルートや地盤などの調査、経済効果、安全性を前面に出した整備計画など」膨大で緻密な計画書をインドネシア政府に提出した。価格で中国に勝てないことはわかっていいる。しかしこの計画書を見れば価格の問題は二の次になるはずだ。ところが蓋を開けてみればインドネシアが選んだ先は中国だった。その理由は「中国が提出した企画書と日本の提出した企画書がほとんど変わらなかった」からだ。さらにはイ

インドネシアに債務保証を求めた日本に対し、中国は債務保証も財政負担も求めず、より短い工期での完成を約束した。技術・サービスもほとんど変わらず、債務保証も求めない（常識では考えられない）のであれば、中国が受注しておかしくはあるまい。ところで、なぜ日本の計画書と中国の計画書にほとんど差異はなかったのか。理由は簡単。中国の付け届けで籠絡されていたインドネシア政府関係者が日本の企画書をそのまま中国に渡したのである。日本政府の旗振りには菅義偉官房長官（当時）であった。当然ながら菅氏の憤りは半端ではない。私も日本人の一人としてインドネシアに呆れたが、またそんな国に住んでい

るということで、多少なりとも恥ずかしい思いをした。インドネシアは付け届けがなければ何も進まない国だ。私が現地を知り合ったインドネシア人は「普通の公務員になるのでさえ、付け届けを要求されることがある」と言っていた。何十年いや何百年に



中国主導で進む高架鉄道敷設中、支柱が崩落し、クレーン車数台を破壊(2021年12月、インドネシア・カラワン地区にて)

渡って付け届けの文化が根付いているのだ。インドネシア

では1998年の経済危機以降、民主化・近代化が進み、2002年には贈賄賂を掃すべく汚職撲滅委員会が設立された。ところが近年では、大物政治家の圧力や法改正（改悪？）により、汚職撲滅委員会はほぼ骨抜き状態になっている。たまに政財界の大物が逮捕されてもいるが、過去何十年、何百年に渡って慣習化した付け届けがなくなるはずもない。よって一般には許認可が難しい、煩雑と考えられるようなプロジェクトに関しても、中国企業が参入している。港湾建設もそうだし、大型集合住宅建設などもある。「現地労働者の雇用に貢献しているのではないか」と勘違いしないでほしい。中国は本国から大量の労働者を送り込んでくる。これらが現地住民との間で大きな軋轢となつてい

るのだ。「ここはインドネシアだ。中国に帰れ」とインドネシア人が怒り心頭している。私は空港で信じられない光景を目にした。入国イミグレーションで、二人の中国人が入国管理官に説明を受けていた。どうやら入国ビザの手続きがなされていないようだ。二人はまったく英語を理解していない。そのうち彼らは大声でがなりたて、最後にはイミグレーションを強行突破しようとした。保安係がやってきて、二人の中国人を連れていったが、こんな世界的常識のない輩がごまんとやってきている。彼ら二人を見て「だから中国は」と論じるのは拙速かもしれないが、大なり小なりそんな光景が世界中で繰り返されているに違いない。先進国日本でさえIR事業で現職衆院議員が（中国企業との）贈賄賂で逮捕された。ましてや付け届けが慣習となつている発展途上各国に中国の「一帯一路」プロジェクトが進むのは至極当然である。ところで、中国が受注した高速鉄道計画は現在（2022年1月時点）暗礁に乗り上げてい

原発事故から11年

福島は今

福島原発訴訟団团长 武藤 類子

東日本大震災にともなう東電福島第一原発事故が起きてから11年が経とうとしてい

る。今、どれだけこの事故は人々の記憶に残っているだろうか。事故から10年目を機にマスメディアは福島の「復興」に報道の舵を大きく切った。しかし、2011年3月11日に発令された「原子力緊急事態宣言」は今も解除されていない。福島第一原発の廃炉ははるかな道であり、今も収束作業に従事する作業員は過酷な被ばく労働を続けている。「復興」報道の陰で今も解決していない問題、新たに引き起こされた問題が福島には山積している。

被害者の実情

事故直後には少なくとも18万人の人が避難を余儀なくされたが、現在次々に避難解

除されている。しかし、その地域が安全になり元の姿に



福島県双葉郡富岡町夜ノ森地区

戻ったからではない。解除の時の放射線量の基準は、事故前の国際基準年間1ミリシーベルトの20倍の20ミリシーベルトである。生活に必要なインフラも十分に整備はされていないこともあり、帰還者は

避難者全体の3割に満たない。避難解除とともに避難者への賠償や支援が打ち切られただけでなく、さまざまな事情で公営住宅から退去できない避難者に対し、福島県は2倍家賃の請求書を送り続けたり、裁判に提訴している。原発事故の被害者を長期に支援する法律もない。現在までに福島県の災害関連死は2300人以上、その中で自殺者は118人、災害復興住宅での孤独死は自殺者を含めて155人。うつ状態やPTSDの症状に苦しむ被害者も多い。

放射性物質の再拡散

2021年4月、政府は福島第一原発敷地内に貯められているALPS

処理汚染水を海洋放出する方針を決定した。昨年未には東電が海底トンネルを掘って陸から1kmの

地点で海に流すための工事の申請を原子力規制委員会に出した。海洋放出に対しては福島県漁連、全漁連他、福島県の農業、林業、観光業界、住民たちが反対の声を上げ、福島県内の7割以上の自治体議

会も反対や慎重の決議をしているが、それを無視して強引に進められている。原発事故で膨大な量の放射性物質で汚染してしまった海を、これ以上汚してはならない。また、除染で集められた汚染土を「再生資材」と名を変えて、高速道路の土台や農地の土壌として全国で再利用しようという計画が環境省によって進められている。更に再生可能エネルギーと位置付け、汚染された木を燃やし発電する木質バイオマス発電所が次々と建設されている。排気による放射性物質の拡散や、濃縮された灰が再生資材として利用され、放射性廃棄物が全国の環境に再拡散される危険がある。

子どもたちへの教育は

事故当時18歳以下の子どもたちを対象とした甲状腺検査では、現在266人ががんとその疑いと診断されているが、原発事故との関連は認められていない。そして検査の縮小が県民健康調査検討委員の中から繰り返し提案されている。本来の「福島の子どもの健康を見守る」という

検査の目的はどこに行ったのだろうか。

2020年に開館した「東日本大震災・原子力災害伝承館」は、事故が継続する原発から約4kmのところであり、周りは帰還困難区域と中間貯蔵施設に囲まれている。そのような場所に全国から高校生や中学生が見学に来ている。展示内容についても、事故前の原発安全神話への反省や、事故を防げなかったことへの責任、ヨウ素剤が適切に配られなかったことなどはなく、未来に教訓をのこすために必要な内容が抜け落ちている。これは、全国の学校で配布される「放射線副読本」も同様だ。原発事故があったからこそ、未だ現存する放射線の危険とそれから身を守る方法や、二度と同じようは事故を起こさないようにしっかりと責任を問う教育が必要だと思う。

原発事故は長い時間が経過してもこんな状況を引き起こし続ける。この状況に少しでも歯止めをかけ未来のある世代に負担を掛けないように、今、大人がするべきことがあるはずだ。

政治家にならないことの薦め

大阪 原野 通有

政治家でもなく政治に無縁な小生が《盲像を撫でる》類の意見を開陳する無茶をお許し頂きたい。何故なら政治は全国民に嫌でも関係するものだから無関心では済まされなから。

ある市会議員が曰く「目の

前の我が党の議員が一番敵ですよ。だってそうでしょう、

彼が活躍して知名度を上げたから次の選挙ではこれまでの自分の支持者が彼に投票して自分が落選するかも知れない」。全くその通りだ！彼が

人気を博したら他党の支持者から票がくるより、自党他の議員からの票をもらうのは素人でも分かる話だ。同一選挙区で自党の候補者を増やせば自分の票が減るのは当然で、(党勢拡大しなければいけないと言いながらも)自党からの新人を出すのに裏では猛反対する、これも当たり前のこと。ましてや足元が同じ地区から出ようものなら共倒れになる。保守党の如く業界(圧力・利権)代表とか、地

域・町会基盤ならそこを固めるだけで他の組織に侵入しなからまだ区域分けがハッキリしているで自分の基盤を脅かされない限り立候補者増にはそう反対しないだろう。この選挙制度を改善しなくては政党政治は花開かない。

世襲政治家から政治を取り戻そう

特権階級が無いのが民主主義なのに、多数の世襲議員を抱える党が政権を握るようでは民主主義とは言えない。勝ち組たる彼らは立候補へのハードルは低く、地盤も看板もカバンも引き継ぐから簡単に元の仕事に戻れるから不平等である。国民に世襲議員を否定する雰囲気強く醸成すべきであるし、法的にも政治家のモラルとしても排斥すべきである。世襲組と異なり普通の社会人が政治家を志ざすには人生を掛ける覚悟と家族を巻き添えにしそれまでの仕事を放棄する一大決心が必要である。それでいて政治家は決して割の良い商売ではない。

だから私は政治家になることを薦められない。政治家は特異な立場だから人間関係が難しいし、人間不信に陥りがち、世の中の汚い水も飲まざるをえない。世の中の役に立ちたい、市民に尽くしたい心がけよりも、一にも二にも三にも選挙で当選することが優先される、自分の選挙のことは考えてない。年配議員の世代交代への反発・自己保身



能力は凄い(そうです)。せめて参議院比例非拘束名簿方式なら自分の名前や党名を書いてもらうことが当選への道だからこの方式を広く採用すべきだ。何故互いにいがみ合う制度からこの方式に変える努力を各政党がしないのか不思議だ。我が国の成人の半分は投票すらしない。投票行動は理に叶ったものでなく、見た目、地縁、利権等でかなり決まる。名前の連呼が有効なんて

低次元な話だ。選挙運動期間中だけでなく年がら年中選挙民に気を使い、愛想を良くし、どこへ行くにもプライバシーはない。身綺麗にし、品行方正を装わなければならない。ご苦労なこった。毎度毎度の選挙には新たなうたい文句や魅力を振りまかないと、選挙民には飽きられる。

政治家は有権者のレベルに合わせた選挙活動をしなければならぬから情けない。でも行政府を動かせる？なあんとことは総理や行政の長にでもならないことは殆ど無理な話だ。議員の主要な活動は「質問すること」でしかない。答える方はどうとでも答えられます。質問するだけで権限はない。それも年間を通して回数や時間はそんなにない。政治家には特権があつて収入も多い、と思われているが、真面目に仕事をやっていたらとても採算が取れるとは思えない。選挙には金がかかるし、落選したら一銭の金にもならない。政治活動にも活動報告にも金がかかる。

勤続年数で給料が上がるわけでも年金が入るわけでもない。選挙には党からの(税金

からの)支給金がないと多くの候補者はしんどいものだ。歳費は多くても手元に残るのは付き合ひ等の経費が結構かかってサラリーマンと大差はない。まあ自己満足とお神輿に担がれて当選した感激が忘れられないから政治家は辞められんのだろう。逆にもう一つ辞めたくても年金だけでは食べて行けないという生活上の問題も大きいぞうだ。地方都市では現行の歳費くらいでは生涯をかけるにはしんどくて、リタイヤ組か副業持ちでないとする気になれない。議員を減らして歳費を上げるのが良いかな。女性もサラリーマンも決意一つで政治家を目指す、落選しても元の仕事に戻れる環境が必要だ。選挙屋でなく皆が政治家と言える国をめざしたい。

民主主義はまだまだ遠い道のりだ。政治家をこき下ろす風潮が大きいが私は自分の信念のため社会のために日々努力してくれている多くの議員さんを知っている。もっと誰もが政治家を身近に感じ、政治家になりやすい社会になって欲しいものです。

鈴木義男と生存権——「生存権」誕生の舞台(下)

「社会の真の富は一人一人の人間の命」

社会事業史学会
清水 まり子



(※現行第25条は草案では第23条として審議されました)

第23条 第一項 二項案をだします。

「第一項 すべて国民は、健康にして文化的水準に応ずる最小限度の生活を営む権利を有する 第二項 この権利を保障するために、国は全ての生活部面について社会福祉、公衆衛生の向上及び増進を図り、社会的生活保障制度の完成に努めなければならぬ」

審議の流れ変えた
鈴木の言葉

昭和21(1946)年新憲法制定時、芦田小委員会の生存権審議が最終日となる三日目の8月1日、社会党は独自の

これに対し議長芦田は、第12条に「個人として尊重され、生活権を保障される」と簡略にしてはと提案します。さらに最小限度の生活を保障しろということだから「12条の生命権とか、自由権とか、幸福追求権というところに生活権という文字をいれてやったほうがよくはないか」と述べます。ここで議論が膠着状態になったときに、鈴木が「違うのです。立法の体裁から言っても12条の最初の一項は倫理的な要求なのです。総て国民は、個人として尊重さ

れるということなので、それから、経済上の生活保障というもの、これを継ぐと木に竹を継いだようになる。継ぐならば生命、自由及び幸福追求の方に入れなければならぬが、是は是で一つの完全体となっており抽象的規範としては是で十分」と述べ、法文上の不整合性について説得します。12条は自由権の範疇に入る条文であり、生存権など国家の積極的な介入・施策を要求する社会権とは法文上の性格を異にしているからです。

ついで進歩党から、社会党の提案は政府草案に含まれているものを、部分的に解釈の重要なものを更に引き出して規定するということから、そうした具体的なものは「憲法でなく下位の」法律に任しておいて差支えないのでは」という意見が出されます。それに対し鈴木は「それならば打ち切りに願いたい。婚姻は両性の合意でやるとか、住居の選定はどうする、令状を持つてこなければ縛れない、こんなことは皆刑事訴訟法や民法に規定すべきもので、何の必要があつてここに規定したものか分からぬ」と反論します。それに対し「それは

人権に対する非常に大きい問題で」と意見が出されると鈴木は次のように応えます。「それならば生存権は最も重要な人権です。結局19世紀までの憲法の体裁だとお考えになるか、20世紀になってから出来ている各国の憲法のような憲法を作ることが差支えないかということに帰着するのです。フランスの憲法でも、ソ連憲法でも、労働者の権利とか色々なことをもつと詳しく書いてありますよ」

これに対し、進歩党が社会党の財産権の修正意見を見て「所謂社会主義の」と発言しかけると、鈴木は「アメリカの憲法に書いてあることなら黙って通すが、フランスやソ連、ドイツの憲法に書いてあるのは通さないとしようという意見が非常に強いので、我々心外に思っているのです」と抗議します。

この三日目の8月1日の審議からいえることは、それまで論理を尽くして奮闘してきた森戸とは異なり、法学の立場から簡潔に問題点を指摘し、論議の場を仕切っていく力が鈴木に与えられていることを、そうした力学が話し合いの結果に大きく作用するところが読み取れます。また当時の法曹人で、生存権を最も重要な基本的人権として認識していたのは僅か、しかも鈴木には戦前からの生存権に関する研究の蓄積がありました

打ち砕かれた国家の再建に 最善の形を提示

鈴木義男は明治27(1894)年福島県白河市のキリスト教の牧師の家庭に生まれました。中学時代を仙台の東北学院で過ごし、仙台二高から東京帝大法学部に進みます。大学では吉野作造の薫陶を受け大正デモクラシーの時代思潮の中で過ごし、専門の法学では社会法という当時としては新しい分野の研究を志していました。社会法は労働法や経済法・社会保障法へと展開する法学の分野です。それは19世紀から20世紀にかけて資本主義が成熟するにつれ、自由

憲法第25条 第一項 すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する
第二項 国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない

放任の経済が大多数の人々ととり飢餓の自由を意味することになった時代背景のもとに、労働者や社会的弱者といわれる人々の人権を社会政策立法を通して現実的に実現しようとする法学と言えます。

大正8(1919)年に国際労働機関ILOが設立され、またワイマール憲法等の成立ともなっています。ワイマール憲法には、例えば最低賃金法・労働時間法・児童労働廃



二高時代の鈴木義男

止法・婦人労働者保護法・男女同一賃金法等一連の充実した労働者保護法が定められています。鈴木は「ドイツ新憲法は人類の社会的開放の第一声、生存権の門出」と高く評価しています。

さてその後鈴木は法学部助手を経てヨーロッパへ留学。帰国後東北帝大に赴任し、法文学部教授となります。在職中日本初の社会法講座も担当し、並行して社会立法に関する諸論文を発表します。しか

し大学における軍事教練に反対して大学を辞職、上京して弁護士となります。当局に睨まれつつも、当時の治安維持法下で河上肇や宮本百合子・鈴木茂三郎らを始め共産黨員、キリスト教の牧師等数多くの人々の弁護に奔走し、人権擁護の闘いを実地で実践していくこととなります。敗戦後、政治家を志して社会党から立候補、衆議院議員に選ばれ、憲法会議で活躍します。

芦田小委員会では生存権以外にも第17条の国家賠償請求権、第40条の刑事補償請求権の成立に

も貢献。また第9条の平和条項、第1条の国民主権の明確化、天皇の国事行為の縮減、家庭生活の保護、高等教育の国家保障、最高裁長官の任命形式に於ける三権分立の確立などを主張。敗戦によって打ち砕かれた国家の再建に向け、最善の形を提示しようと全力で取り組む姿がそこにはあるかと思えます。(※)

格差分断超え連帯へ希望紡ぐ
さてここで改めて鈴木の生

存権について言及したいと思えます。先に紹介した社会立法の論文の中で一貫して主張しているのは人格的生存権というものです。即ち単に肉体的・生理的なきりぎりの生存保障ではなく、人間が精神的存在として即ち人格として存在しているその尊厳と発達を保障する権利、人格的生存を全うする権利として生存権を位置づけています。

新憲法制定後、鈴木が25条の生存権について解説した一文に「最低生活というのは、健康を保持し、かつ文化的欲求を充足するものでなければならぬ、その意味での最低生活が保障されているのである。」(1946「勤労権と新憲法」『教育と福祉』)とあります。文化とは精神的存在である人間の営みそのものである、それが充足されて初めて最低限度の生活と言い得るなら、従来の生活保護基準も再考される点があるのではないのでしょうか。

生活保護の申請では、親族への扶養照会や資産調査などの事前調査を前に申請自体をためらう事例が続く、本来生活保護水準にある国民の2割から3割しか申請が行われて

いない現実があります。またこのコロナ禍で非正規雇用の労働者が大量に失職し路頭に迷う姿、特に女性の割合が多く、育児中の母親の経済的困窮や、女性の自殺が増加していること、そして近年の過労死を含め、生存権の裏付けとなる雇用実態が、労働者派遣法(1985)以来ここ35年余、派遣や非正規雇用でしめられてきた、その脆弱さが一気に噴き出てきているといえます。そこには人格と切り離して労働力を単なる商品として捉えている問題点が大きく介在しているといえます。近年の新自由主義は、確実に生存権、生活権を支える社会を切り崩してきたことを今一度見つめなおす必要があると思えます。その前提として、この社会における真の富は何か、この地球上に生きる一人一人の人間の命こそ真の富である、ということの認識を新たにすることが大事ではないのでしょうか。

日本国憲法は人類の普遍的原理である政治道德の原則に基づき、骨子に基本的人権を置き75年。改めて人格的生存権は、ジェンダーや外国人労働

者の問題も含め現代社会の殆ど全ての問題に通底していることを思います。人格的生存権の実現は即ち社会正義の実現であり、その認識と自覚に立ち、問題の解決へとさらに歩を進めることを、鈴木義男は、さらには日本国憲法は、今も強くわたくしたちに促し続けているのではないのでしょうか。

生前、困っている人を見たら身ぐるみ脱いで衣服を与えたいという鈴木は、「没我的利他を極致とする」自由を意欲する人間の「共同体」という言葉を好みました。格差・分断を超え新たな連帯の流れを生み出していくことに、これからの社会の希望を紡いでいけたらと願うものです。

※1 芦田小委員会の中での各議員の発言回数(議長芦田を除き)

鈴木:575回、犬養:256回、森戸:253回、林:206回、吉田:204回、原:162回、北:154回、廿日出:143回、大島:114回、笠井:105回、高橋:83回、江藤:71回、西尾:17回(但し質的条件加味せず)

※2 鈴木は、その後社会党政権で初代法務総裁となり最高裁判所の設置、また人権擁護局を創設。戦前から戦後にかけての激変する法制改革を指揮し、衆議院議員を7期務め昭和38(1963)年逝去。専修大学学長、東北学院理事長も務める。

保護犬との暮らし

東京 シロツメクサ

私は犬を飼っている。雑種で茶色の中型犬だ。名前は「一心」と言う。心ない人に飼われ虐待を受けた後、千葉の山中に捨てられたらしい。2008年2月、我が家は一心を里親として引き取った。彼が来たのは雪が舞う寒い日であった。痩せてはいるが若々しく艶のある長毛で、輝きのある潤んだ眼をしている。我が家は子供がいない。私たち夫婦も父もたいそう喜んだ。

一心は穏やかで大人しい犬だった。初めて散歩をした時、わき目もふらず、電信柱も素通りし、道路を真つすぐに歩いていくだけ。私に氣を使っているのか、あまりにも歩くのが遅い。ダイエットの相棒に小走りのウォーキングを目論んでいた私はガツカリした。鳴かないので声帯に異常があるのかと思っていたが、3日目の夜、家族で食事に行くため玄関の外に出たと

たん、家の中から「クウーン、クウーン、ワンワン！」と大きな声が聞こえてきた。一人になるのが嫌だったようだ。家族と認めてくれたのかなと感じた。

従順で食事もガツガツ食べず、水を怖がることもなくシャンプーされるのも慣れていった。丁寧に育てられていたのではないかと推察するが、自己主張しない性格のため、



元気な頃の一心

幼犬の頃、素直な感情を出すことで嫌な体験をしたのかも知れない。

月日が経つにつれ、明るく振る舞いになっていった。ごはんが欲しい、そばに来たい、散歩を喜ぶなど自己主張が出来るようになった。毎日何度も散歩に出かけた。春の早朝、川沿いの広場で一緒に遊ぶのは楽しかった。子供同然で甘やかし、我々夫婦が仕事に行っている間は父が散歩を引き受けた。

一心が来て良かったことの一つは

父の散歩相手になっても良かったこと。
一心が家族になる数か月前に私たちは今の場所に引っ越してきた。当初

は知り合いが全然いなかったが、父は一心のお陰で外に出かけるようになり、程近い公園で、いつの間にかご近所さん達と楽しく立ち話をする間柄となっていた。しかし動物は人間より先に年をとってしまふ。毎晩いっしょに寝ていたのに、いつの間にかベッドに上がらず足元で寝

るようになり、次に階段が登れなくなり、散歩から帰っても玄関から上がれなくなった。腎臓病だと分かった。その日から週に2、3回、点滴を打ちに通院することに。

今、闘病生活は2年となった。昨年の春の終わりから夜鳴きが始まり、年末年始には歩くのがしんどくなった。この夏にはとうとう寝たきりとなった。最近は何も耳も悪くなり、脱力して首も座らない、身体の自由もきかない。少し前までは昼も夜も吠え続けていたが、最近は息をするのもしんどそうだ。吠えない時は寝ているか、老犬らしくボーっとしている。口も開きにくくなって噛むことが出来ない。哺乳瓶でヨーグルトを飲ませ、離乳食らしきものを作りシリンジという注射器のようなものでご飯を食べさせている。私たちには介護というより初めての子育てに近い。

昼も夜も休む間がないため、私の体力が持たず脳が働かない時がある。仕事も家事も効率が悪くいつも疲れている。判断力なくアウトプットも出来ずボロボロだ。短時間で寝たり起きたり睡眠が十分

分。気持ちもささくれ立って、自分でも信じられないことが起きる。

落ち着いて余裕がある時、一心は愛おしくて彼の世話が楽しく感じる。しかしそれ以上に、一心が死に向かっている姿に寄り添うのが辛い時もある。それでも残された時間、彼が安心していられるようにしたい。最近私は部屋を変えて、一心と夜通し起きている。床ずれ防止に90分ごとに寝返りを何度も打たせなくてはならないのだが、辛くも幸せな時間だ。

いま私が体験している混乱した日々に興味があるとしたら、幸せや死、必要とされる支援について考えるきっかけを与えてくれたのかと思う。一番想うのは「悲しさと幸せが共存することもある」ということだ。一心も、最初は大変な犬生だったが、保護され、我が家に来て幸せになったと思う。だからもつとつと、とことん幸せに長生きして欲しい。一心には感謝しかない。一心は昨年11月13日に天国へ召されました。老衰で眠ったまま逝きました。ありがとうございます。

はじめに

この度の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によるパンデミック(世界的大流行)は、人類が築いて来た文明の脆弱さを、白日のもとに晒している。2年以上にわたって、ごく普通の日常の活動である政治・経済・文化・科学など、全ての分野が、新興感染症のコロナウイルス(SARS-CoV-2)に翻弄されてきた。

ウイルスにとって、国境は何の意味も持たない。自国第一主義を掲げていては、世界的なコロナ禍を脱却することはできない。人類は、誕生以来、多種類のウイルスと接してきた。それらが病の原因となることも多々あるが、ヒトのゲノム(全遺伝情報)の約半分はウイルス由来と考えられている。変異株を含むSARS-CoV-2についてわかったことを検証し、人智を尽くして対策を立て、全ての人が他者を思いやる冷静な行動をとることで、このパンデミックを乗り切りたいものだ。

この未曾有のパンデミックを経験している人類には、遺伝情報と環境要因を包括した

生命観に基づく新しい哲学が必要なのではないだろうか。その哲学は、子供から老人まで全ての世代の人たち、また、全ての国の人たちが容易に理解できる普遍的なものでなくてはならない。私は、北里大学の教員の時期(1964年〜2007年)に、新入生に対する一般化学の講義の

文明の起源は記録を残すこと
人類(ホモ・サピエンス)は、生活を豊かにするために、様々な情報交換の方法を編み出して来たが、およそ1万年ほど前に、体験や考えな

ポストコロナの人類の生き方(上)

人類を含む全ての生物は、地球環境のパラサイトである。

宇宙生命哲学者 伊藤 俊洋

中で、科学全般の入門的な話をしてきた。それは、その後、「宇宙生命哲学」という新しい哲学の提唱へと発展した。

宇宙生命哲学は、地球上に現存する生物の一員である人類の一人一人が、宇宙における立ち位置と役割を踏まえ、尊厳を持って生きるための哲学である。今回は、この哲学をもとに、これからのポスト

コロナの時代を生き抜く人類のあり方について私見を述べたい。

どの情報を文字という記録手段で後世に残す方法を見つけた。一旦、それらが記録に残ると、その後には生まれた人類は、蓄積された情報を踏み台にしてその先を考えることができる。情報の蓄積は増幅し、人類共有の巨大な知的財産となり、社会で広く利用されるようになった。地球上には多く

の民族や国家が誕生しそれぞれが情報を交換しながら独自の文明や文化を創出し、文明相互の交流によりその裾野を広げ、人類は、アツという間に月を往復できるまでの科学的知識を獲得したのである。長い生命の歴史の中で、情報を記録に残したのは、人類だけである。文明の起源は、情報を記録するという行為であると断言しても良いと思う。蓄積した科学的知識は、人類共有の財産である。

循環している地球上の生命

地球上の生命現象を俯瞰的に眺めてみよう。宇宙から地球を覗けば、地球が、水の惑星、生命の惑星であることが容易に理解される。現在の科学的知識に基づく、地球上

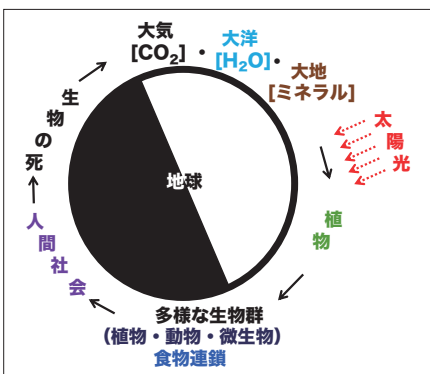


図1 地球上の生命の循環

のほとんどの生物は、植物や藻類などの光合成で作られた糖類などの栄養素を利用して生きています。光合成とは、植物などが光によって水を分解し、酸素を発生させ、二酸化炭素を糖などの有機物に変換するシステムである。

動物は、植物と違い、光合成能力を持っていないので、無機化合物(水や二酸化炭素)から、糖などの有機化合物を作ることはできない。動物は、植物などが作った栄養素を利用して生育し、動物どうしの食物連鎖により、一般に小動物から大動物へと栄養素の移動が行われる。動物は、人類も含めて、いわば植物に寄生するパラサイト(寄生生物)と言えることもできる。

人間は、これらの食物連鎖の頂点に立って、地球上の広範囲の生物を食料源にして生活している。一方、地球上のすべての生物は、死ぬと様々な化学反応によって、単純な化学物質に変換され、環境に還ってゆく。つまり、人類を含む全ての生物は、地球環境のパラサイトとして循環していると言える。

(以下続きます)



連載
第20回

野村 芳太郎

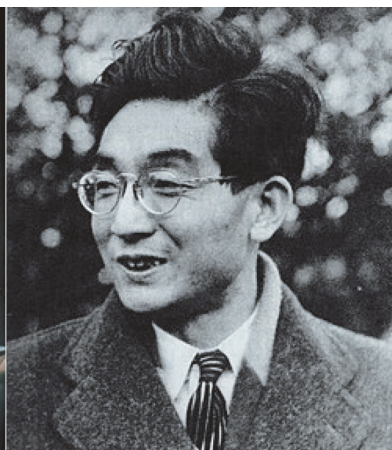
社長になる事を
期待された映画監督

鎌倉在住 市川 隼

黒澤明が松竹で『醜聞』、大映で『羅生門』を撮った後、再び松竹で『白痴』を監督したが、黒澤の流儀と松竹の経営が合わなかったのか、松竹に対して、黒澤は好印象を持たなかった。『白痴』が長すぎたので短くしろと要求された時、激怒した黒澤が、短くしたければフィルムを縦に切れと応じなかったのも、今に残されている逸話だが、黒澤が唯一松竹に対して好印象を抱いたのが、2作品の助監督を務めた野村芳太郎に対してであり、野村を高く評価し、「これからは君た

ちの時代が必ず来る。二人共仲良く、一緒に仕事をしろよな」と言って、黒澤作品の脚本を担当していた橋本忍を野村に引き合わせ、後に、監督野村・脚本橋本の『砂の器』の名作誕生に繋がった。野村は1919年東京に生まれ、2005年東京に没したが、慶應義塾大学文学部を繰り上げ卒業させられた後、父野村芳亭と同じ映画監督・脚本家の道を追う様に、1941年松竹大船撮影所に小林正樹と共に入所したが、同年応召され、インパール作戦に従軍し、「白骨街道」から九死に一生を得て復員したのが1946年7月であり、本格的な映画人としての活躍は、その後の事だった。

野村は松竹の要求を受け入れ、1952年の『鳩』を手始めに、遺作となった1985年の『危険な女』に至るまで、現代劇や時代劇、喜劇や推理劇、青春劇や社会劇まで、幅広く多様な88作品の映画を作り上げたが、アルフレッド・ヒッチコックが推理劇に才を示したように、横溝正史、山本周五郎、大岡昇平、松本清張、アガサ・クリステ



野村芳太郎監督 (HP)

『砂の器』の四作品に上り、取分け、『砂の器』は社会劇としても注目された。1960年の安保闘争時に読売新聞に掲載された小説の映画化で、企画されてから14年後の1974年に公開されたが、首脳部の反対に遭って映画化が見送られて来たが、松竹を退社して東宝で映画化すると

の野村の粘り強い説得で、映画化に漕ぎ着けた作品とされ、興行的にも成功し、各種の映画賞を受賞し、1989年の文芸春秋が選んだ邦画ベスト150の作品の内ベスト13にランクされている。ハンセン氏病を背負った父とその子が、故郷を追われ巡礼の旅に出るが、戦争のドサクサの中で戸籍を改竄し、内外で評価される作曲家に成長した青年が、彼の過去を知る恩人を蒲田操車場で殺害する事件が描かれた作品だった。山田洋次が『野村さん、わが師』で、「ぼくの長い映画人生の中で、師と云われる人は誰かと問われれば、ぼくは躊躇なく二人の名前を挙げる。脚本家橋本忍、そして映画監督野村芳太郎」と記しているが、山田が助監督として野村に師事した時、野村に勧められて橋本に弟子入りして脚本を学び、『ゼロの焦点』や『砂の器』では、橋本と共に、山田も共同脚本家として字幕に記されている。野村は、役者を育てるのにも上手な監督だった。1963年の作品『拝啓天皇家下様』は、渥美清演じる山正が、極貧の中で生きて来た娑婆より、飯付きの軍隊生活の方が天国であり、戦争が終わり除隊させられると困るので、除隊させないでほしいと天皇陛下に手紙書こうとするドタバタ劇で、自らの戦争体験を下に仕立てた作品であり、渥美は6年後の山田の作品『男はつらいよ』で、名実共に人気俳優となった。周五郎の『五辯の椿』の映画化は1964年だったが、主役を演じたのは岩下志麻で、2ヶ月にわたるリハーサルで、同じセリフを泣きながら、怒りながら、笑いながら演じる技を磨かれ、その後大女優に成長した。橋本は自らの著『複眼の映像』で、「君は余計な事をしてくれた。野村を将来僕の後釜に据えようと考えていたのに、生涯監督の一人にしてしまった」と、城戸社長から文句を言われた話を披露しているが、『砂の器』の野村は、恰拙な、「鋼の器」のような映画監督だった。

特攻隊員の歴史を

次世代へ伝える

東京 世田谷区 太田 有美

第二次世界大戦末期に米軍の軍艦に体当たりの攻撃をした旧日本軍の特攻隊を題材とした2つの舞台で特攻隊員を演じた俳優富山健さんにインタビューを行い、戦争の歴史と舞台秘話、俳優さんの魅力に迫りました。

富山さんは舞台「Kiss Me You」が選ばれたシンブルー達へ」（昨年9月に東京・中目黒のキンケロ・シアターで上演）、そして特攻隊の出撃基地となった鹿児島県知覧町の航空基地の近くで食堂の経営をして、隊員が頻りに訪れ、特攻の母」といわれた鳥濱トメさんを主人公としたノンフィクションのストーリー「MOTHER? マザー? 特攻の母? 鳥濱トメ物語」（昨年11月、東京・足立区のシアター1010で上演）の両舞台に出演。



特攻隊員を演じた富山達さん

は、第二次世界大戦末期の日本が舞台。ごく普通の青年の特攻隊員達が恋をしたり、悩んだり、友人と笑い合う日々からストーリーりは始まりません。戦況は逼迫、いよいよ出撃の時が迫り、大切な人へ別れを告げ、国のため、家族のため、愛する人のため青年達は飛び立って行きます。「MOTHER」も同じく時代は大戦末期。特攻隊員を支えた特攻の母鳥濱トメさんと特攻隊員達との交流や生き様が描かれます。

前半にコメディ要素を取り入れた「Kiss Me You」とノンフィクションで

シリアスに練り広げられる「MOTHER」とでは舞台内容のタッチが違います、どちらも特攻へ向かう青年達とその周りの大切な人々とのストーリーです。特攻隊とは、大戦末期に自分の命を捧げ戦艦に爆弾を抱えて米軍の軍艦へと突撃した部隊です。

好きな人、夫、息子が飛び立って行きます。まだ幼い妹に本当のことを言えない兄、明日が出撃だと知らされる妻。二度と会うことが出来ないとこの覚悟をしなければならず泣き崩れる妻・母の姿や、国のために飛び立つ青年達の敬意から何も言わずに頭を下げるシーンに胸を打たれました。

俳優さんに聞きました

——「Kiss Me You」では主役を務め沢山のシーンに出演されていきましたね。女性にはシャイでなかなか告白も出来ない好青年が、特攻隊員の前では出撃前に泣いてしまう仲間を男らしく大声を上げて励ますシーンには優しさや強さの両方が見え涙しました。

富山「本当にこの方々がいたから僕達は今何不自由なく

生活できていると実感しました。劇中で描かれている、恋愛模様や、不満を口にしたり、泣いたり、弱音を吐いたり、キスをしたり。そんなことは全部、当時の方々はしたくても出来なかった事だと思っています。それを僕達が演じてその方々に捧げることが出来る世の中が今あること。当時の方に比べてみればどれだけ今は自由だろうか、その当たり前前の幸せに気付きました」

——平和な日本時代に私達は生まれ、劇中で聞いたことのないサイレン音や風景を見ると戦争の悲惨さを肌で感じました。

富山「そうですね。でも正直な事を言うと演じた僕自身、僕は戦争を経験したわけではないので、演技でしかなく、本当の現場や怖さというものは結局今でも分からないです」

富山さんとのインタビューで最も印象に残った言葉でした。私達が戦争の事を分かる、知っていると言えは嘘になるのかもしれないですね。舞台は何度も再演されています。たった76年前の出来事であり、悲惨な戦争が二度と繰

り返されないように、忘れていたために、私達が後世へ伝える重要性を知る舞台でした。

——演技をする上で大切にしていることはありますか？

富山「もつと余裕のあるところに行くべきと思つてるところか、なんのスポーツでも一緒かもしれないませんが少し肩の荷が降りた、どうでもいいやくらいで臨んでいる時の方が余計な力が入らなくていいなと感じます。エネルギーシユなのでそこがまた難しい部分でもあるのですが」

——富山さんはいつも明るく、声も大きい元気な印象ですがご自身の強みは何ですか？

富山「自分の考える強みはエネルギーですかね。全てに對して全力で向かっていくエネルギー、そこが強みでもあり短所でもあるのかもしれないです」

彫りの深い顔立ちですが純日本人。歌やギターが趣味であり、休日は運動する時間を大切にしているそうです。先輩には甘え上手で後輩には面倒見の良い、ユーモアの溢れる富山健さん。さらなる活躍を期待します。

映画監督にして画家 増山麗奈の駆け巡り!



第18話

ロスジェネが日本再起動の ボタンを握っている

無差別殺人事件が毎日のように起きています。誰か個人を憎んでいる、というよりは、誰でもいい。失うものなどない。というような動機が多い。その背景になるのは貧困の拡大。雇用の機会喪失。真面目に生きようとしてもレールから外れてしまった人たちのやるせないさだ。

私は現在氷河期世代の全国ネットワークというものを立ち上げて同世代との大人子ども食堂を主宰している。今45歳になる私たちの世代は氷河

期世代、いわゆるロスジェネと言われる。大学や高校卒業後、バブル崩壊後の91年から93年に社会に出たため、正規雇用の経験のないまま、非正規で不安定な環境で生きていた人が多い。私たちの親の世代は団塊世代。806万と人口の8%を占める大きな層の子どもである。本来であれば私たちの世代から団塊ジュニアのジュニアと、ベビーブームが起ころはずだった。でも第二次ベビーブームは来なかった。年収300万円以下の非正規雇用は婚活市場の圏外にいる。結婚や子育ては選ばれしものたちの贅沢品になってしまった。氷河期世代とは現在40代の世代で会を立ち上げて3年になるのだけれど、最近会に寄せられる相談が深刻化している。「所持金7万円、もう家を失った。どうすればいいかわからない」「パワハラで心を壊した。働きたくても体力がない」「DVの避難施設から出てきたがいくら面接しても仕事が決まらない」「子どもが四人



一緒に活動する氷河期ネットのスタッフ。後列右は、社会福祉労務士の菅井智親さん。人子ども食堂の日は無料労務生活相談にのってくれます。後列左はSNS担当の斉藤広伸さん。支援したい人と受けたい人の受付ポータルサイトを作ってくれました

いるが消しゴムも買ってあげられない」。コロナ禍で最初に解雇されたのは非正規雇用40代女性で、その後非正規男性。ロスジェネは婚活だけでなく労働市場でも価値がなく、同じ人件費をかけるなら、IT技術の高い若者の方が重宝される。そういったことの積み重ねが、カップラーメンの孤食が、私たちロスジェネの尊厳を日々少しずつ削いでいく。

2009年には「ロスジェネ宣言」という言葉が流行語対象にノミネートされた。私が編集委員をしていた「ロスジェネ」(かもがわ出版)の巻頭文章だ。読み直してみても驚いた。「私たちは失われた10年を生きってきた」とある。失われた10年はそのまま何の対策もせず失われた20年に

なったわけだ。その間韓国の賃金は1・8倍に増え、時計が止まった日本は陥没した。今、中高年の引きこもりは61万人。実家に暮らし親の年金や貯蓄を食い潰しながら、もうすぐ親の世代が施設に暮らさなければいけない臨界点を迎える。コロナ禍はその臨界までの時計を早めた。その時、ロスジェネは実家を失い、61万人の中高年は路頭に迷う。

人口比率の割に私たちの声は世の中にあまり届かない。それは勝ち組、自己責任的な価値観のせいだ。引きこもりの息子の存在を多くのサラリーマンや良妻賢母は隠してきた。パワハラで心が傷ついたロスジェネたちは「自己責任だ」「甘えだ」と言われるのが怖くて、家から出られない

かった。団塊世代もロスジェネ当事者も見たくないものを直視しなかったことが、凶悪犯罪の増加にも直結している。私たちは政治の失敗の結果であり、教育の失敗の結果である。

私の会社では3名の求職していた方に就労してもらっている。中年からでもワードやエクセルの使い方を学べるし、映像編集のスキルを磨く人もいる。人は何歳からでも生き直せる。結婚しなかったのなら、新しい信頼できる仲間と家族を超えた暖かい輪を作りたい。今までの価値観を捨て、ここから立ち上がりたい。失われた者たちが人生を取り戻すリスタートダッシュにはベシックスインカム的な公助が必要だ。空き家や、耕作放棄地、廃棄食材、社会のリソースをどう活用したら最大公約数のハッピーが作れるのか?話し合いたい。ロスジェネは人口の4分の1を占める。私たちはもう「見たくない」存在でいるのは飽きた。私たちロスジェネの生き直しは、眠ったまま錆び付いていた日本の再稼働ボタンとなるはずだ。

長生きの寂しさ

前島 咲子

義父は、89歳まで生きた。なくなる直前まで元気で、知的好奇心を持ち続けた人であった。よく食べ、よく笑い、誰とでも気さくにおしゃべりをするのを好んだ。

世の中の権威にも執着がなく、大学の名誉教授だったが、国からの叙勲を辞退した。なぜ

辞退したのか、聞いたことがある。

「お国のために勉強したわけではな

いもの」と、さらりと口にした。ただ一人の人間として生涯を終えた。

その義父が、80歳を超えたころ、「年を取るってことは、大変なことだ。心を許した友達が次々と病に倒れ、亡くなっていく。寂しいものだよ」と、ぼつんと漏らしたこ



とがある。私は、「でも、おとうさんは元気で、食欲もあるし、いまでも本をたくさん読んでいる。油絵も随分上達しているし、長生きして、いいことたくさんあるじゃない」と軽く受け流した。

その時の義父の言葉を、やっと分かるようになってきている。1年半後には、私も80歳になる。学生時代から60年間、大切な友人として付き合ってきた1人を、2年前に

突然亡くした。そしてもう1人も、現在がんの闘病中である。

このところ小康状態のその友人と、「お

互い、いつ別れが来るかわからんから、今のうちにアホな話をたくさんしておこう」と言い合っている。電話で、どうでもいいような話を延々2時間も続けながら、長生きの寂しさに気づかされている。

余録

武藤類子著『10年後の福島からあなたへ』(大月書店出版)を本人から語っていただいた。

また春はめぐってくる。10年目の3・11がめぐってくる。原発事故を経験したそれぞれにとって、それはどんな10年だったのだろうか。生きるステージが突然変わってしまった、それを自分に無理やり受け入れさせる日々を、私もだが、

編集後記

今号もより面白いタウン誌になります。共産党の現職でしかもこの夏東京選挙区で改選の山添拓氏を議員会館に尋ねて寄稿を快諾してもらった。本誌としては初めてのことで、す。他方、衆議院選挙で落選し支援者が今後を心配している立民党の辻元清美氏に昨年「辻元は元気だ」の原稿を依頼したら「締切りを20日程ずらしてくれたら、今後の方針も決まっているだろうから」

被害を受けた多くの人々が送ってきただろう。10年を経て、失ったものへの懐かしさに胸がえぐられる。時とともに深く、激しく。この10年間を、福島原発事故を体験したものとして、事故の責任追及を続けている一人として、多くの方に話を聞いて頂き、文章として読んで頂いた。この本には2012年5月から2020年3月まで、様々なところに書いた文章を掲載した。自ら読み返してみても、あまりにも多くのことが解決せ

とのことで、辻元氏の原稿を最後に回す編集で皆さんに読んでもらいます。様々な肩書を持つ宇宙生命哲学者伊藤俊洋氏は初登場ですがいかなる作品か？実はまだ届いてないが楽しみです。新人と云えば《シロツメクサ》さんも。家族の一員として生活した一心君との心温まる話は誌面の都合でだいぶカットさせていたいただいたのが残念です。もう1人、原発事故を国と東京電力相手に告訴団長武藤類子さんの被害者としての記事は大変重いものがある。また読者から「鈴木義男さんの記事を読

ずに、あるいは増々悪化してゆく現実があることに呆然としてしまう。こんな絶望的な現実の中では、目を閉じ耳をふさぎたくなってしまうかもしれない。でも、まやかしてはないほんとうの希望を見つめるためには、一度この絶望を、目を凝らして見つめなければならぬ。こんなにも理不尽なこと、酷いこと、絶望的なことが起きているのだという事を認めたくなくて、その中にまだ希望があると信じて、諦めずに抗い続けたい。

み、今ある憲法がいろんな人たちの熱い思いと死にもぐり込む結晶として誕生したことを知りました」という声も寄せられました。

(1月21日記)

今号のカットの絵は編集部の人々の漫画家を目指す駆け出し以前の若者に依頼したものです。社会に公開される当誌面で腕を磨く場として試しに描いてもらい辻元さん側にも了承を得ています。無料のタウン誌ですので素人っぽいカットですが、若者を温かく見守って下さい。

(2月5日追記)

コロナ禍、対応力を欠く政治

新型コロナウイルスの新たな猛威が広がる2022年の幕開けとなった。岸田首相は、「スピード感をもって対応してきた」と胸を張るが、ワクチン、検査、医療、どれをとっても後手に回っている。

沖縄、山口など、米軍基地から感染が広がった可能性を、政府もようやく認めるに至った。在日米軍が米国を出国する際の検査を勝手に中止していたのは、米軍に治外法権を認める日米地位協定があるからにはかならない。ところがその改定を求めると、二言目には「日米同盟の抑止力」といい思考停止に陥る。自民党政治に解決する意思も能力もないというなら、交代していただくしかない。

コロナ禍が長引き、くらしと生業への影響が深刻化している。年末年始、都内各地で相談・支援活動が取り組まれた。若い世代や子どもを伴った女性の姿も目にする。私が相談を受けた方は、40代で年末に派遣の仕事を打ち切られ、寮も追い出され、初めて食糧支援を求めてきた。それでも、「生活保護はまだいい」

「もうちょっとと仕事を探してみよう」という。同様の反応は多くの相談者に共通している。それだけ追い詰められている。自己責任ではなく、公助の責任こそ問われている。岸田政権の下でも、自民党政治の冷たさは変わっていない。

憲法が、希望政治に正義が問われている

日本共産党参議院議員 東京選挙区 山添 拓



1月1日 新宿大久保公園「コロナ被害相談村」にて

政治を変えるには 共闘しかない

先の総選挙で日本共産党は、史上初めて「野党共闘で政権交代を」と掲げた。コロナ対策における無為無策と迷走はもとより、ウソとごまかしを重ね、憲法も民主主義も

壊す政治をこのままにしてはおけないという広い人々の声が野党の共闘を後押しした。共闘勢力で一本化した59の選挙区で勝利し、自民党の重鎮や大物議員を落選させた。33選挙区で自民党候補に僅差まで迫った。野党共闘なくしてはつか

めなかつた成果である。

野党が合意した20項目の共通政策は、安保法制の廃止や辺野古新基地建設中止、消費税減税、原発

の無い脱炭素社会

など、自民党政治のゆがみに根本からメスを入れるものであった。もし政権交代を許せば、従来の政治は大きく揺らぐ。その危機感から、共闘への攻撃は激しさを増すことになった。

日本共産党が日米安保条約

廃棄や自衛隊違憲の主張をしていることを挙げ、「政策も理念も違うのに野合だ」「自由と民主主義の政権か、共産主義の政権か」などの攻撃が大々的に行われた。日本共産党が「天皇制は違憲と言っている」というデマも流された。これらは今度の選挙の性格をねじ曲げるものであるが、メディアも使って拡散された。

私たちが十分に反撃することができず、結果として政権交代を実現できなかったことは悔しく残念で、反省点も多い。同時に、この激しい共闘攻撃は、日本共産党が加わる野党政権が選択肢に上るという、日本の政治の新たなステージでのことである。ここで止めれば、相手の思うつぼである。

政治を変えるには、共闘しかない。立憲主義と民主主義を取り戻し、命とくらしを最優先におく政治のために、一致点と相互尊重を貫きたい。

憲法いかし希望ある日本に

私は弁護士時代、福島原発事故の被害賠償を求める事件や、過労死事件などに取り組

んでいた。原発利益共同体が不当に利益を分け合う下で、ふるさとでもそこでのくらしも人々のつながりも壊された。人間らしい働き方を否定する資本の下で、命を奪われ心身の健康を脅かされる人が大勢いる。一握りの者の経済的な利益のために、多くの個人に犠牲が強いられている。それを助長する政治がある。そのことに怒りを感じてきた。

政治に、正義が問われている。経済の不正をただし、気候危機打開、ジェンダー平等へ——正義ある政治で実現したい。そのカギは、憲法ではないか。

岸田政権は、敵基地攻撃能力の保有を検討し、9条も変えるという。しかし軍事対軍事の対抗は必ずエスカレートし、武力衝突のリスクを招く。現実的に考えるなら、戦争を絶対に起こさせない平和外交に徹するべきだ。ASEANの努力にも学び、対抗ではなく平和と協力の東アジアにするためにも、9条をいかにした政治が求められる。

憲法をいかし、希望ある日本に。力を合わせ挑戦し続けたい。